

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73024	3	前期	選択	1	15
授業科目名 (英文)	代替医療論 (Alternative Medicines)				
担当教員名	東郷 俊宏				
授業の概要及び到達目標					
<p>本科目は現代の医療の中で西洋医学とともに実践されている、もしくは将来実践される可能性のある各種の相補・代替医療について理解することを目的としている。</p> <p>授業では西洋医学とは異なる理論的基盤、もしくはアプローチを有する相補・代替医療の歴史と定義、および国内外における相補・代替医療の現状について概説する。さらに各種相補・代替医療の各論として漢方、気功、あん摩指圧マッサージ、鍼灸、温泉療法、音楽療法などの具体的な内容や、これらの治療法の科学的エビデンスの構築状況についても学習し、対象理解を含めた看護にも役立つ内容とする。</p>					
準備学習等					
<p>準備でなく復習に焦点を当てた授業展開をするため、以下には復習の要点を示す。</p> <p>授業</p> <p>第1回：西洋医学と相補・代替医療との相違、欧米や日本で相補・代替医療が実践されるようになってきた歴史的背景と現状を再確認しておく。</p> <p>第2回：漢方や鍼灸治療など、東アジア伝統医学の共通の基盤となる自然観、生命観について、ナイチンゲールの『看護覚え書き』との共通点を踏まえながら理解する。</p> <p>第3回：漢方治療ではどのような病態把握を行い、処方を決定するのか、その概略を再確認しておく。</p> <p>第4回：鍼灸、指圧マッサージではどのような病態把握のもとに施術がなされるのか、また気功、薬膳の概要を再確認しておく。</p> <p>第5回：西洋の代表的な相補・代替医療であるホメオパシーの特徴について確認しておく。また近年日本でも多く実践されているアロマセラピーの概要やメディカルアロマセラピーの展開の現状を確認しておくこと。</p> <p>第6回：アーユルバーダや各種相補・代替医療（芸術療法・音楽療法等）の概要を再確認しておくこと。</p> <p>第7回：ビタミン療法や健康補助食品等の代替医療の特徴を確認しておくこと。</p> <p>第8回：相補・代替医療におけるエビデンスの構築の現状について再確認しておくこと。</p>					

成績評価の方法	授業でのディスカッションへの参加 (40%) レポート (60%)
テキスト	特に指定しない
参考図書	
備考	相補・代替医療は西洋医学とは異なる生理観に基づいている場合が多く、最初は理解しにくいかもしれませんが、漢方薬は国内の医師の8割近くが処方した経験があると言われており、また多様な身体の捉え方を知ることが看護に役立ちます。しっかりと学びましょう。
授 業 計 画	
<p>第1回 相補・代替医療総論 相補・代替医療の定義・種類と分類・現状（日本、ヨーロッパ、アメリカ、アジア）</p> <p>第2回 東アジア伝統医学① 東洋医学の基本的な生命観、生理観、診断法について</p> <p>第3回 東アジア伝統医学② 漢方（代表的な漢方処方を通じて漢方医学独特の病態把握について学ぶ）</p> <p>第4回 東アジア伝統医学③ 鍼灸、指圧マッサージ、気功、薬膳</p> <p>第5回 西洋の代替医療 ホメオパシー、アロマテラピー等</p> <p>第6回 その他の代替医療① アーユルベーダ、各種芸術療法（音楽療法・ダンスセラピー）、温泉療法など</p> <p>第7回 その他の代替医療② ビタミン療法、健康補助食品など</p> <p>第8回 まとめ</p> <p>第2回～第6回では、講義に加え、それぞれの治療で用いられる薬（生薬・医療用漢方製剤、精油等）、鍼、もぐさなどに触れ、理解を深める。また、鍼灸治療やマッサージなどで用いられる体表面の治療ポイントである「ツボ」を実際に触れながら、患者さんへのタッチに必要な心構えを習得する。</p>	